家庭礼拝ガイド 365 日－９月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
9/1	ﾏﾀｲ 9:9～13	ﾏﾀｲ 9:13	罪人を招くために
9/2	ﾏﾀｲ 11:28～30	ﾏﾀｲ 11:28	休ませてあげます
9/3	ﾙｶ 7:36～50	ﾙｶ 7:47	赦されること、愛すること
9/4	ﾏﾀｲ 12:46～50	ﾏﾀｲ 12:50	イエスさまの家族
9/5	ﾏﾀｲ 13 章	ﾏﾀｲ 13:23	４つのたね
9/6	ﾏﾀｲ 13:44～46	ﾏﾀｲ 13:44	畑に隠された宝
9/7	ﾏﾙｺ 4:35～41	ﾏﾙｺ 4:39	嵐を静めるイエスさま
9/8	ﾏﾙｺ 5:1～20	ﾏﾙｺ 5:19	主がしてくださったことを知らせる
9/9	ﾏﾙｺ 5:25～34	ﾏﾙｺ 5:33	イエスさまの前に打ち明ける
9/10	ﾏﾀｲ 10:16	ﾏﾀｲ 10:16	鳩のように
9/11	ﾏﾀｲ 10:28～33	ﾏﾀｲ 10:32	だから恐れることはありません
9/12	ﾖﾊﾈ 6:1～14	ﾖﾊﾈ 6:13	五つのパンと二匹の魚
9/13	ﾏﾀｲ 14:22～33	ﾏﾀｲ 14:31	なぜ疑うのか
9/14	ﾏﾙｺ 7:1～23	ﾏﾙｺ 7:15	人の心にあるもの
9/15	ﾏﾀｲ 15:21～28	ﾏﾀｲ 15:27	主よ、そのとおりです
9/16	ﾏﾙｺ 7:32～37	ﾏﾙｺ 7:33	エパタ（開け）
9/17	ﾏﾀｲ 16:16	ﾏﾀｲ 16:16	あなたこそ生ける神の御子キリスト
9/18	ﾏﾙｺ 9:1～8	ﾏﾙｺ 9:7	山上の変貌
9/19	ﾏﾀｲ 18:21～35	ﾏﾀｲ 18:33	ゆるしのたとえ
9/20	ﾖﾊﾈ 8:1～11	ﾖﾊﾈ 8:7	罪の無い者が
9/21	ﾖﾊﾈ 8:12	ﾖﾊﾈ 8:12	わたしは世の光です
9/22	ﾖﾊﾈ 9:1～7	ﾖﾊﾈ 9:3	神のわざが現れるため
9/23	ﾖﾊﾈ 10:11	ﾖﾊﾈ 10:11	わたしは良い牧者です
9/24	ﾙｶ 10:17～20	ﾙｶ 10:20	本当の喜び
9/25	ﾙｶ 10:25～37	ﾙｶ 10:36, 37	良いサマリヤ人
9/26	ﾙｶ 10:38～42	ﾙｶ 10:42	どうしても必要なこと
9/27	ﾙｶ 11:1	ﾙｶ 11:1	祈りを教えてください
9/28	ﾙｶ 12:13～21	ﾙｶ 12:21	愚かな金持ち
9/29	ﾙｶ 15:4～10	ﾙｶ 15:7	天の喜び
9/30	ﾙｶ 15:11～32	ﾙｶ 15:20	放蕩息子

９月１日　　**テーマ：「罪人を招くために」**

聖書個所：マタイの福音書９章９節～１３節

◆今日のみことば

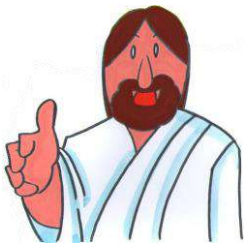
「わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない」とはどういう意味か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。

マタイの福音書９章１３節

◆メッセージ

罪人とは、神さまのことばや思いを第一としないで、自分勝手に生きている人たちのことです。神のひとり子であられるイエスさまは、そんな罪人である私たちのところに来られました。罪人だから汚れていると遠ざけないで、近づいてくださいました。

マタイさんは、取税人という人々からお金を集めるお仕事をしていました。その時代の取税人は、人々から余計なお金を集めては、自分のものにしていました。つまり、ずるをして人のものを盗んでいました。ですから、人々から嫌われていました。イエスさまは、そんなマタイさんのことを見て、「わたしについて来なさい」と声をかけられました。マタイさんは嬉しくて、イエスさまについて行きました。このマタイさんが、弟子の一人になったマタイさん。マタイの福音書を書いたマタイさんです。



マタイさんだけではありません。イエスさまは、他の取税人や罪人たちと食事をなさいました。取税人や罪人たちは人々から嫌われていたので、他の人たちと食事をしたくても出来ませんでした。でも、イエスさまは違いました。取税人や罪人たちといっしょに食事をなさいました。それを見た聖書を研究している律法学者やパリサイ人たちは、イエスさまに「なぜ、罪人たちといっしょに食事をするのですか？」と質問しました。彼らは、自分たちのことを罪人だと思っていなかったからです。「聖書のみことばを知っている。盗みもしていない。人殺しもしていない。正しい人間だ。」と。イエスさまは、答えました。「正しい人ではなく、罪人を招くために来ました。」この言葉は、イエスさまが私たちのところに来てくださった目的を表わしていました。そもそも、すべての人が罪人です。でも、自分が罪人で救いが必要だと思っている人々は、汚れているのでイエスさまのもとに近づけないと思ってしまいます。だから、イエスさまが招いてくださっているのです。

私たちも、神さまのことば・思いを選ばずに、自分勝手に生きてしまう罪人です。しかし、そんな私たちをイエスさまは「見てくださり」「声をかけてくださり」「いっしょに食事をしてくださる」愛のお方・お優しいお方です。あなたは、イエスさまの招きにどのようにこたえますか。

◆お祈り

「イエスさまが、私を招いてくださったこと、ありがとうございます。私も、イエスさまのように、生きられますように」

（矢作キリスト教会牧師　竹内智之）

９月２日　　**テーマ：「休ませてあげます」**

聖書個所：マタイの福音書１１章２８節～３０節

◆今日のみことば

> すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。　　マタイの福音書１１章２８節

◆メッセージ

「はあ～、疲れた！」学校、遊び、宿題、習い事、部活・・・やることがいっぱいで、毎日クタクタでしょう。身体だけではありません。心も。私たちの毎日の生活は楽しいことばかりでなく、嫌なこともたくさんあります。そして嫌なことがあると心が休まらなくなってしまいます。誰かと話していても、食事を食べていても休まりません。嫌なことが無くなれば良いのにと思います。でもひとつ嫌なことが無くなってもまた別の嫌なことが起こるものです。

イエスさまは教えてくださいました。「わたしのところに来なさい。」。いつでも、イエスさまのもとに行くこと。問題がなくなることを期待するのではなくて、イエスさまの所に行って、イエスさまに休ませていただくことが教えられています。

やった～、何にもしないで、ずっと寝ていられる？いえいえ、続けて、イエスさまは言われました。「あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい」。くびきというのは、牛や馬が荷物を引っ張るときに身に着ける道具です。休むための道具ではなくて働くための道具です。つまりイエスさまは荷物を下ろして休むことではなく、イエスさまが与えてくださるくびきで荷物を負うことを教えてくださいました。実は、ここでイエスさまがおっしゃっているくびきは二頭の牛を繋ぎ合わせて一つの荷を引かせる、そういうくびきです。イエスさまは「私があなたと一緒に荷物を背負うよ。だから休めるよ」とおっしゃっているのです。重たい荷物を運ぶのは悪いことのようですが、なぜ重たい荷物をわざわざ運ばなければいけないのかというと、それはその重たい荷物が大切なものだからです。置きっぱなしにするわけにはいかない、価値ある荷物だから苦労しても運ぶのです。その荷物を投げ出すことが休むことではなくて、イエスさまと一緒に担うのです。

いろいろなことが毎日の生活に起こりますが、イエスさまが一緒に担ってくださっているので心配ありません。一人では倒れてしまうような問題があっても、パートナーであるイエスさまがいるから心配いりません。イエスさまと一緒に歩くことだけを忘れずに今日も一日を過ごしましょう。

◆お祈り

「天の父なる神さま、私と一緒に荷物を担ってくださるイエスさまを忘れずにいつも生活できるようにお守りください。」

（川奈聖書教会牧師　山口光仕）

9月3日　　**テーマ：「赦されること、愛すること」**

聖書個所：ルカの福音書７章３５節～５０節

◆今日のみことば

だから、私は言うのです。この女の多くの罪は赦されています。というのは、彼女はよけい愛したからです。しかし、すこししか赦されない者は、少ししか愛しません。

ルカの福音書７章４７節

◆メッセージ

一人ぼっちでみんなから嫌われて、「私なんてたくさん悪いことばかりしていたから、絶対に神さまは私のことはお嫌いだわ。」暗い心で毎日過ごしていた女の人が、イエスさまのお話をききました。イエスさまが自分の罪の身代わりになって罪を赦してくださる救い主であることを信じていました。

ある日、パリサイ人の家にイエスさまがおいでになったことを聞いて、この人はその家に行きました。町中の人たちは、この人がどんな人が知っていました。みんなが嫌そうに見ていてもこの人はイエスさまにお会いしたい、その思いだけで家の中に入りました。イエスさまはお客さまなのに、その足もきれいにしてもらっていませんでした。この女の人は急いでイエスさまの足もとに立ちました。感謝の思いで涙があとからあとから流れ、イエスさまの両足を濡らしてしまいました。急いで髪の毛を解いて、その髪の毛でその涙を拭きました。そして、これまでとても大切にしまっておいた良い香りのする高価な油で、イエスさまの両足を拭きました。イエスさまはこの女の人の心の中を知っておられました。イエスさまは言われました。「この女の人は、わたしに愛をあらわしています。たくさん罪が赦されたから、こうしてたくさんの愛のおこないをしてくれました。」そして、はっきりと「あなたの罪は赦されました」と宣言してくださいました。

イエスさまは十字架にかかって、私たちの罪をすっかり赦してくださいました。私たちはどのようにして、この女の人のようにイエスさまに感謝をおささげしましょうか。愛をあらわしましょうか。昔、アメリカにある教会で、一人の少年がその日、献金を持って来ることができなかった時、講壇の前に進み、「僕をおささげします。」と祈りました。私たちもこの少年のように、イエスさまのご愛におこたえしていきましょう。

◆お祈り

「私の悪い心をお赦しください。心からイエスさまを愛し、お従いできますように助けてください。」

（茅ヶ崎同盟教会伝道師　川島正子）

９月４日　　テーマ：「イエスさまの家族」

聖書個所：マタイ１２章４６節～５０節

◆今日のみことば

> 天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。　　マタイ１２章５０節

◆メッセージ

今日のテーマは「家族」です。救い主としてお生まれくださったイエスさまにも、家族がいました。それが、ヨセフさんとマリヤさん、そして兄弟姉妹でした。きっと温かな家庭であったのでしょうね。しかし、今日の箇所では少し様子が違っています。神さまのことを多くの人々に伝えていたイエスさまのところへ、お母さんであったマリヤや兄弟たちがやってきました。神さまのことを伝えるのをやめさせようとして、イエスさまのところへやって来たのです。同じことが書かれているマルコ３章を見ますと、人々はイエスさまが悪霊につかれていると言って、やめさせるように家族に話したのだと思います。

そこでイエスさまは言われました。「天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」イエスさまはご自分の家族を愛していました。でもそれ以上に神さまを愛し、神さまの教えに従って歩む人々を愛していたのです。なぜなら、神のみこころに従う人々こそがイエスさまの家族とされるからです。

私たちは当たり前のように家族は「ある」ものだと思っています。しかし、今の世の中、その家族が壊れ、毎日のように悲しいニュースを私たちは聞いています。でもそのような私たちに聖書は、イエスさまを信じ、罪を悔い改め、赦された者は神の子とされると約束しています。そしてその父である神の言葉を聞き、従うものが神の家族となるのです。家族は「ある」ものではなく、「なる」ものなのです。

イエスさまの家族の一員となる、何と素晴らしいことでしょう。ルカ１５章にあります放蕩息子のたとえの中では、放蕩の限りを尽くした息子を、雇い人の一人にしてくださいといった息子を、大切な家族、息子として迎え入れてくださった父の愛があらわされています。同じように罪深い、愚かな私たちも、その父の愛によって家族として迎え入れていただくことができるのです。

家族の一員として、その愛に富んだ父のもとで、御言葉の内に、どのように歩んでいけば良いのか教えていただき、歩むことが出来ることは本当にうれしいことですね。神の家族として、喜んで御言葉に従っていきましょう。

◆お祈り

「神さま、神の家族の一員として、喜んで御言葉に従うものとさせてください。」

（衣笠中央キリスト教会牧師　三浦峰人）

９月５日　　**テーマ：「四つのたね」**

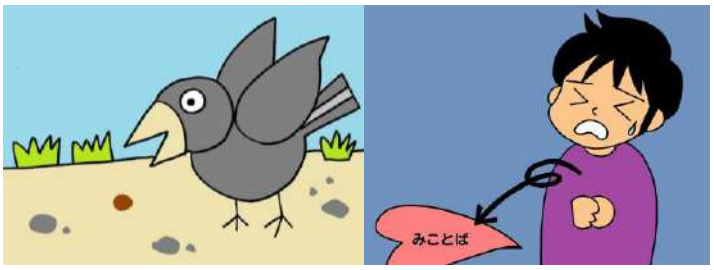
聖書個所：マタイの福音書１３章３節～９節、１９節～２３節

◆今日のみことば

ところが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。

マタイの福音書１３章２３節

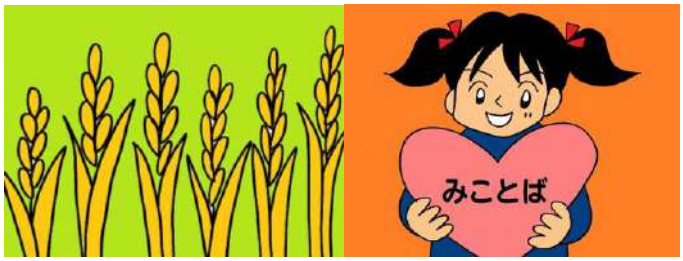
◆メッセージ



ある日、イエスさまが、こんなお話をされました。

「たねをまいているおじさんがいました。一粒のたねが、ぽとんと道ばたに落ちました。するとすぐに鳥が来て、食べてしまいました。別のたねは土のうすい石のようなところに落ちました。そのたねは、すぐに芽を出しましたが、日が上ると、焼けて、かれてしまいました。別のたねは、いばらがたくさん生えている中に落ちました。芽は出ましたが、いばらも大きくなって、ふさいでしまったので、実はなりませんでした。もう一つのたねは、良い土に落ちたので、たくさんの実がなりました。」

イエスさまのお弟子さんたちが、このお話はどんな意味ですかとお尋ねすると、イエスさまはこんなふうに説明してくださいました。「このお話で、たねというのは、聖書のみことばのことです。たねが落ちたところは私たちの心です。道ばたに落ちるというのは、みことばを聞いても、そんなのうそだと、信じないでいることで、そうしていると、悪魔がイエスさまを信じないようにさせてしまうのです。石のようなところに落ちるというのは、みことばを聞いたときは喜んで信じるのですが、深く信じていないので、つらいことや苦しいことが起きると、イエスさまを信じなくなってしまうことです。いばらの中に落ちるというのは、みことばを信じてはいても、みことばを読むよりもっと楽しいことがあると、それが気になってしまって、イエスさまを信じなくなることです。良い地にまかれたたねは、たくさんの実を実らせます。」



みなさんはどうですか？どんな心でみことばを聞いていますか。みことばを聞いても、知らんぷりで行わないと、悪魔にねらわれてしまいます。気に入ったことには従うけれど、ちょっと苦しいことや都合の悪いことには、耳をふさいでしまうと、根を張ることができません。みことばに従うよりも、自分の好きなことが先になっていると、邪魔ないばらが心をしめてしまいます。お父さん、お母さん、教会の先生からみことばをたくさん聞いて、すなおな心でそのとおりに信じて、イエスさまに喜んでいただける人になりましょう。

◆お祈り

イエスさまのことばを聞いて、心から信じるように信仰を与えてください。

（愛のキリスト教会牧師　影山範文）

９月６日　　**テーマ：「畑に隠された宝」**

聖書個所：マタイの福音書１３章４４節～４６節

◆今日のみことば

> 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。
>
> マルコの福音書１３章４４節

◆メッセージ

図書室に行ったことがありますか。図書室には、おもしろい本、ためになる本、知らなかったことを教えてくれる本、いろいろな本がありますね。みんなが読んでおもしろい本は、いつもだれかが借りていて、なかなか手にすることができないものです。前から読んでみたいなあと思っていた本が、久しぶりに図書室に戻っているよと、聞いたらどうしますか。うれしくなって、休み時間になると、誰よりも早く、走ってはいけないと言われている廊下を走ってでも、図書室にかけつけ、それを手にしたいと思いませんか。自分こそが借りてしまおうと思いませんか。それが素晴らしい価値のある本だと分かっているからです。

イエスさまは、畑に隠されていた宝物が、本当に素晴らしくて、価値があるものだと分かったなら、すべての持ち物を売り払ってでも、それを手にしようと、畑ごと買ってしまうでしょう。神さまの国の子どもとされるということは、それほど素晴らしいことなのですよと語られました。

それはだれにでも分かるように、知らされているわけではありません。隠されているからです。だから、それを知ることができたというのは、とてもありがたいことなのです。そして、それを自分の手にすることができたなら、その人はきっと、喜び踊ってしまうでしょう。神さまを知っていることって、素晴らしいですね。

それは、一人の人だけのものではありません。誰もが手にすることのできる宝物なのです。そして誰もがみな神さまの子どもとして喜ぶことになるのです。

神さまの国の子どもとされるという、宝物の素晴らしさを知った人は、まず神さまに感謝しましょう。そして、それをお友だちにも教えてあげましょう。みんなで神さまの子どもになれたら、嬉しいですね。

◆お祈り

神さま。神の国の子どもとなることの素晴らしさを教えてくださり、ありがとうございます。この宝がお友だちにも伝わりますように。

（久里浜福音教会牧師　深澤祐一）

9月7日　　**テーマ：「嵐を静めるイエスさま」**

聖書個所：マルコの福音書４章３５節～４１節

◆今日のみことば

> イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。
>
> マルコ福音書４章３９節

◆メッセージ

みんなは、船に乗ったり、飛行機に乗ったりして、怖い思いをしたことがありますか？先生は船に乗っているあいだに台風にあったことがありましたが、本当に大変で怖かったです。何も見えない夜中の海で、強い風と大きな波に揺れる船の中にいることはとても大変なことです。生きて家に帰れるかな、と真剣に心配しました。何とか助かりましたけれど、その時のことを思うと、今も船酔いをしているようです。

イエスさまの弟子たちも、夜中、イエスさまと一緒に船に乗って湖を渡っている時に、激しい嵐にあいました。弟子たちの中には漁師さんもいて、嵐には慣れているはずだったのですが、この時は本当に大変だったみたいですね。

それなのに、イエスさまは疲れて眠ったままでした何もしてくれません。弟子たちは急いでイエスさまを起こして、「私たちは死にそうなのに何も思わないですか」と文句を言いました。そこで、イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われると、風はやみ、湖も静まりました。そして、イエスさまは続けて弟子たちに言われました。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」イエスさまが一緒にいるので怖がる必要はなかったのに、弟子たちは不安で大騒ぎしたからですね。

私たちは、生きている間に、必ず大変な経験をします。怖い目にあうこともあるでしょう。

でも、イエスさまを信じて、イエスさまと一緒なら、安心できます。イエスさまは私たちを愛されているからです。私たちにこの信仰がないと、いろいろなことを心配して、悩んでばかりになってしまいます。目に見えるものの心配事の方が、イエスさまより大きく見えたりしますから。

しかし、イエスさまは世界を造られ、支配しておられるお方です。イエスさまは、ただ信じて、心配しないように、私たちに教えておられます。

皆さんのことは、イエスさまがとても愛しています。良い時も高ぶらないで、大変な時も心配しないで、いつもイエスさまを信じて祈りましょう。

◆お祈り

イエスさま。私たちと一緒にいてくださってありがとうございます。いつも忘れないで、信じることができますように助けてください。

（高麗聖書教会　李相勲）

９月８日　　**テーマ：「主がしてくださったことを知らせる」**

聖書個所：マルコの福音書５章１節～２０節

◆今日のみことば

> しかし、お許しにならないで、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」　　マルコの福音書５章１９節

◆メッセージ

イエスさまは今でも、人々を罪や悪の支配から救い出していてくださいます。それはイエスさまの恵みによる救いのみわざです。私たちも、生まれながらの罪人で、たくさんの罪や悪の支配の中に生きていたのではないでしょうか。悪い不安な時代でもあります。私たちの生活の中には思い当たる罪、悪い行いや悪い心やことばがあった（今もある）のではないでしょうか。しかし、そんなこの世や私たちの所に、イエスさまはやって来てくださいました。そして聖霊のお働きを通し、祈りや悔い改めの告白、イエスさまを救い主として信じる信仰を与えてくださいました。イエスさまを救い主と信じ受け入れたあとの私たちは、昔とは比べられないほど、平安や喜びが与えられている（いく）はずです。私たちの性格や行動も、以前の私と比べますと成長を与えられているはずです。そのように、主が私たちにしてくださった救いの恵みの実りを感謝しましょう。またその恵みを、家族や友達に知らせることができますようお祈りしましょう。

イエスさまは今日のみことばの中で、ご計画を持ちつつ、デカポリスという、異邦人の地方のゲラサ人の土地に来られました。そこには悪霊に苦しめられていたひとりの人がいました。この人はいつも孤独で、大変苦しい荒れた生活をしていました。非常に多くの悪霊が、この人を支配していたからです。自分でしたくないと思うことをしていました。お墓に住んでいたんですよ。家族もこの人のことを嫌がっていました。すごい力で暴れるので、だれもこの人によりつきませんでした。どんなに苦しかったでしょうね。この人に会いに来られたイエスさまは、この人の中にいたたくさんの悪霊をこの人から追い出しました。悪霊も、イエスさまの前では力がありません。この人のたくさんの悪霊が乗り移った二千匹の豚の群れは、湖に駆け降りておぼれて、死んでしまいました。イエスさまは、この人のからだや心を、悪霊から解放して治してくださいました。

治してもらったこの人は、嬉しくて、イエスさまについていきたいと願いました。でも、イエスさまは言われました。「あなたの家族や町の人々に、神さまがしてくださったことを知らせなさい。」え～、今まで、自分のことを嫌がっていた人たちに、イエスさまの愛を知らせるのは、なんだか損。ひとりじめにしておきたい。それに、家族や町の人たちは自分の話を聞いてくれるでしょうか？でも、ゲラサの人たちも、イエスさまに救われなければ、滅びてしまいます。この人は、イエスさまから言われたとおり、家族のもとに帰ってイエスさまがしてくださったことを話しました。町の人たちにも。命じられたイエスさまは、力も勇気も愛も与えてくださいます。この地方の中で、広く人々に、イエスさまがこの人にしてくださったことを知らせる人へと変わりました。この人の家族やデカポリス地方の人たちは大変驚いて、その中にはまことの神さまを信じた人も出たことでしょう。

あなたは、家族やお友だちに、イエスさまがしてくださったことを話していますか？ひとりじめにしていませんか。イエスさまは、あなたにイエスさまのことを知らせてほしいと願っておられます。

◆お祈り

「私にしてくださった救いのめぐみを感謝します。めぐみを家族や友だちにしらせることができますように。」

（松本中央教会牧師　原山伊作）

９月９日　　**テーマ：「イエスさまの前に打ち明ける」**

聖書個所：マルコの福音書５章２５節～３４節

◆今日のみことば

女は恐れおののき、自分の身に起こったことを知り、イエスの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。　　マルコの福音書５章３３節

◆メッセージ

ある日イエスさまは、「わたしのちいさい娘の病気をなおしてください」と、たのみに来た男の人と歩いていました。イエスさまが病気をなおすかどうかと見ようと、たくさんの人がイエスさまの周りにいました。

その時、ひとりの女の人がついてきました。女の人はずっと病気をしていて、体がとてもいたくて、苦しかったのです。なんと、１２年も。１２年もずっといたいなんて、どんなにくるしいでしょうね。お医者さんに行っても、ぜんぜんなおらないのでこまっていました。イエスさまが病気の人をなおしてあげたという話しを聞いて、やって来たのです。「イエスさまの着物にさわれば、わたしの病気もきっとなおる」と考えて、うしろからそっとさわりました。すると、すごくいたかった病気が直ぐになおってしまいました。

その女の人はだまっていましたが、イエスさまがふりむいて「だれがわたしの着物にさわったのですか」と聞きました。女の人はびっくりしました。じつは、イエスさまのまわりには、ほかにもおおぜいの人がいて、いっしょにぞろぞろ歩いていたので、自分がさわったことに気づかれないだろうと思っていたからです。

ところで、イエスさまは、あんまりおおぜいの人がいたので、だれがさわったかわからないから聞いたのでしょうか。いいえ、ちがいます。イエスさまは、病気の女の人がついてきたことも、だれがさわったのかもとっくに知っていました。でも、さわった人が自分から「わたしです」「わたしの病気がなおりました」とちゃんと言ってほしかったのです。神さまは、力だけ利用するお方ではありません。一人で信じていればいいのではなく、信じていることを、感謝していることを、神さまにお伝えすることが大切です。イエスさまは、それをさせようと、声をかけられました。

その女の人はどうしたでしょうか。聖書には、「病気をなおしてもらいたいので、わたしがさわりました」「病気がなおりました」「ありがとうございました」とイエスさまにちゃんと言うことができた、と書いてあります。イエスさまはとても喜んで、その女の人をほめてくださいました。

あなたは、イエスさまを信じていることを、感謝していることを、イエスさまにお話ししていますか。イエスさまと会話する祈りをしていきましょう。

◆お祈り

わたしは、イエスさまに何もひみつにしません。どんなことでもお祈りの中でイエスさまにお話しできることを感謝します。

（塩尻聖書教会伝道師　廣田洋子）

９月１０日　　**テーマ：「鳩のように」**

聖書個所：マタイの福音書１０章１６節

◆今日のみことば

> いいですか。わたしが、あなたがたを遣わすのは、狼の中に羊を送り出すようなものです。ですから、蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい。
>
> マタイの福音書１０章１６節

◆メッセージ

イエスさまは、救いの良き知らせを広めるために、弟子たちをいろいろな町々に遣わしました。弟子たちを送り出すに当たり、イエスさまは伝道するための大切なことをいろいろと教えられたのです。イエスさまの教えの中には、次のようなものがあります。

「胴巻に金貨や銀貨や銅貨を入れてはいけません。旅行用の袋も、二枚目の下着も、くつも、杖も持たずに行きなさい。働く者が食べ物を与えられるの当然だからです」マタイ１０章９～１０節

イエスさまの救いを知らせる人は、何よりも、「イエスさまは、従う人のすべての必要を満たしてくださる」と深く信頼することが求められているのです。そのようなイエスさまへの信頼は、イエスさまの光を人々に示すことになるでしょう。

そして、言われました。「あなたがたを送り出すのは、狼の中に羊を送り出すようなものです。」え？狼の中に羊がいたら、食べられちゃう！狼はいつも群れて、エサとなるものを狙ってきますから。救いの良き知らせを伝えるのは、そんな大変なこと？いいえ、羊は羊飼いが守ってくれます。羊のような私たちを、イエスさまが守ってくださいます。だから、「蛇のようにさとく、鳩のようにすなおでありなさい」。（１０章１６節）とも言われました。私たちが暮らしている社会は、イエスさまを信じる人のことを、時には狼のように、

苦しめたり批判したりすることがあるのです。イエスさまを知らない人々に囲まれて生活をする時、神さまから賢明に生きる知恵と、悪に染まらない（鳩のような）純真で素直な心を祈り求めることです。蛇は、賢い生き物です。時を判断する知恵があります。鳩は、自分で仕返しをしない鳥です。「神さまがすべてを裁いてくださる」とゆだねて、生きることができます。

イエスさまは、私たちにも救いのよき知らせを伝えるように、とおっしゃっています。友だちに伝えるとき、勇気がいるかもしれません。羊飼いであるイエスさまが守ってくださいます。そのことを祈り求めるなら、きっとイエスさまは、そのために必要なチャンスと知恵と純真で素直な心を与えてくださいます。

◆お祈り

「父なる神さま、私たちをお救いくださりありがとうございます。イエスさまの救いを友だちに伝える知恵と、純真で素直な心を与えてください。」　　（馬堀聖書教会牧師　徳梅陽介）

９月１１日　　**テーマ：「だから恐れることはありません」**

聖書個所：マタイの福音書10章２８節～３３節

◆今日のみことば

「だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

マタイの福音書 10 章 31 節

◆メッセージ

善いこと、正しいことを言ったりやったりすることは、気持ちのよいものです。でも、ときとして、難しいこと、勇気のいることでもあります。たとえば、誰かがいじめられているとき、その子を助けてあげることは、難しく、勇気のいることです。自分もいじめられないだろうか、仲間外れにされないだろうか、と怖くなります。確かに、善いこと、正しいことをしていればみんなからいつも喜ばれるとはかぎりません。ときにはそうすることで、かえってきらわれたり、つらい思いをすることもあるのです。

イエスさまもそうでした。罪のない方なのに、人々から見捨てられ、十字架にかけられてしまいました。でも、最後まで私たちのために、神さまの正しいみこころを告げ、行われました。そのイエスさまが、ご自分のあとに従ってみことばをのべつたえる弟子たちを、ここで励ましてくださっています。

イエスさまはまず、人を恐れないように、と教えられました。本当に恐れなければならない方は、今のいのちだけでなく、永遠のいのちをも与えたり取り去ったりできる神さまだけです。その神さまが、神さまの喜ばれることを行う私たちにむくいてくださるからです。

それから、小さな雀が死ぬことも、髪の毛一本が失われることも、神さまのご計画と許しのもとで起こって来ることだと言われました。そんな小さなものにまで関心を寄せ、大切に思って守ってくださる神さまですから、さらにすぐれた私たちのことを大切に思ってくださらないはずがないのです。

その神さまが、イエスさまに従って正しく生きる私たちとともにいてくださいます。「だから恐れることはありません。」いじめっこも、いじめっこに何かされることも、神さま以外のなにものも恐れることはないのです。今日もともにいてくださる神さまをあおいで、神さまに喜ばれることを、喜んで行いましょう。

◆お祈り

「神さま、あなたは私たちと今日もともにいてくださいます。だから恐れないで、あなたの喜ばれることをおこなえるよう、助けてください。」

（三浦聖書教会牧師　田辺直人）

９月１２日　　**テーマ：「五つのパンと二匹の魚」**

聖書個所：ヨハネの福音書６章１節~１４節

◆今日のみことば

> 彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがいっぱいになった。　　ヨハネ福音書６章１３節

◆メッセージ

みなさんは、計算は得意ですか？算数は好きですか？きらい、苦手…という人もいると思います。１＋１＝２、５×３＝１５…足し算、かけ算など、たくさん習いますね。

さて、今日はイエスさまのお弟子さん、ピリポさんという人が出て来ます。ピリポさんは、ガリラヤ湖の周りに集まっている５千人（女性や子どもを含めると１万人以上！）もの人を前にして、イエス様にこう聞かれました。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせようか。」イエスさまは、ピリポさんをためしてこう言ったのです。ピリポさんは、計算します。「それぞれが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません。」（二百デナリ→１デナリは１日分のお給料）とても自分たちで買うことのできる数ではないと答えました。もう一人のお弟子さん、アンデレさんも「少年がパン五つと小さい魚二匹を持っています。でも、それが何になりましょう。」とイエスさまに言います。お弟子さんたちの考えは、できるはずがありません！という答えでした。しかし、イエスさまは、その５つのパンと２匹の魚を取って、感謝をささげて、人々に分けて下さいました。すると、何とすべての人が十分に食べることができました。そして、五つのパンから出たパン切れを人々が十分食べて後、余ったパン切れが十二のかごいっぱいに集まったのです。

お弟子さんや私たちの考え、計算ではとても考えられない奇跡が起きました。イエスさまには、それがおできになるのです。お弟子さんたちは、イエス様にはおできになるということは考えず、自分たちの考え、計算で頭を悩ませてしまいました。イエス様がピリポさんをためした「どこからパンを…」という答えは、「イエス様から！」です。そして、イエス様が手に取り、感謝をささげた五つのパンと二匹の魚が、あふれるほどの数になり、たくさんの人々を満たしたのです。

◆お祈り

「天の父なる神様。私たちの考え、計算よりも素晴らしいお考え、奇跡を行なってくださることを感謝します。イエス様を通して、私たちの心もからだも、イエス様がくださるパンでいっぱいに満たして下さい。」

（新潟福音教会伝道師　高橋喜代美）

９月１３日　　**テーマ：「なぜ疑うのか」**

聖書個所：マタイの福音書１４章２２節～３３節

◆今日のみことば

そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」　　マタイの福音書１４章３１節

◆メッセージ

みなさんはイエスさまのことをどのくらい知って信じているでしょうか？

弟子たちは、イエスさまが病気を治し、死人を生き返らせ、嵐を静める姿をこの目で見て、神さまの権威（ちから）をもった神の子だと知っていました。

しかし、湖で嵐にあったとき、水の上を歩くイエスさまを見て「幽霊だ！」と騒ぎ恐れたのです。２年以上も一緒に過ごしてきたイエスさまだとわかりませんでした。

弟子たちはこのとき、イエスさまがこの全地を治める王さまの中の王さまであり、世界を造られた神さまであることを忘れていたのかもしれません。神さまであれば湖の上を歩くことだってできるのです。

このときペテロが言いました。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来いとお命じになってください。」するとイエスさまはペテロに「来なさい」と言いました。するとペテロは、舟から出て水の上を歩くことができたのです。

ところが、あまりにも風が吹いていたので、ペテロはイエスさまから目を離し、周りの状況を見たとたん、怖くなり沈みかけました。ペテロは叫びました。「主よ、助けてください」

するとイエスさまはすぐに手をつかんで言われました。「信仰を薄い人だな。なぜ疑うのか。」

ただ素直にイエスさまを見つめて、そのおことばに従ったとき、ペテロは水の上を歩くことができました。

「信仰が薄い」とは「信仰が足りない」とか「信仰が完全ではない」という意味です。全地全能なるイエスさまを信じ、より頼み、イエスさまから目を離さないでいくとき、私たちは他の何かを恐れることはありません。

◆お祈り

神さま。あなたは何でもできるお方です。もし周りの状況が大変であったとしても、あなたを信じ従い続けることができますように。

（五十嵐キリスト教会伝道師　山岸啓水）

９月１４日　　**テーマ：「人の心にあるもの」**

聖書個所：マルコの福音書７章１節～２３節

◆今日のみことば

「外側から人に入って、人を汚すことのできる物は何もありません。人から出て来るものが、人を汚すものなのです」

マルコの福音書7章15節

◆メッセージ

人の心は、外からは見えません。ですから外を綺麗に見せることが出来たとしても、人の心は見えないので本当に綺麗なのか、私たちは分からない時があります。

イエスさまが生きていた時代の宗教指導者たちは、イエスさまの教えに耳を傾けることが出来ませんでした。でも、熱心に宗教的な儀式を守っていたので、自分の心は大丈夫だと思っていたのです。

自分たちが作ってきたルールを聖書より大事にしてしまい、本当の神さまの心から遠く離れてしまったことに気づきませんでした。

例えば、宗教指導者、特にパリサイ人はこのように行動しました。意味も分からずにただ長く祈りました。人目につくところで祈るのが好きでした。　「父と母を敬え」などの神さまの教えをおろそかにして、両親に生活費として渡すべきものを渡さずに、人から信仰深く見せるために、神にささげたと言ったりしたのです。家族を愛することは人には見えないのですね。人から「信仰深い」と褒められることばかりが気になってしまっていたのです。

パリサイ人は外側を大事にしすぎて、本当の意味を忘れてしまったのです。宗教指導者たちはイエスさまのことばに耳を傾けず、イエスさまの行動だけを見て非難をしました。

イエスさまは宗教指導者たちに大事なことを語っています。今の私たちも、心に留めたいと思います。

「ことばと行動だけで神さまを敬うのは良くない。心から神さまを礼拝することが重要だ。本当の汚れは人の心から出るものだ。」とおっしゃったのです。私たちの心にあるものの中に良いものもあります。しかし、「悪い考え、欲張り、盗み、殺人、高慢、ねたみ」などは、人の内側から出てくる汚いものです。

神さまがイエスさまをこの世に送ってくださった理由はここにあります。イエスさまの十字架の愛によって、私たちの心をきよめてくださったのです。今日も神さまに感謝しましょう。心から礼拝をささげましょう。

◆お祈り

私の罪を赦してくださったイエスさま。私たちの心をきれいにしてくださってありがとうございます。ことばだけではなく、心からイエスさまを愛することができるように導いてください。

（三島キリスト教会牧師　崔在邱）

９月１５日　　**テーマ：「主よ、そのとおりです」**

聖書個所：マタイの福音書１５章２１節～２８節

◆今日のみことば

しかし、女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」　　マタイの福音書１５章２７節

◆メッセージ

食事中、ご飯やおかずをこぼしてしまい、しかられることはありますか？　うちの子どもたちもパンを食べる時、テーブルの下は、小さなパンくずでいっぱいになってしまいます。

イエスさまから与えられるすばらしいプレゼントは、たとえ、そのかけら、パンくずのようなものであっても、そこには豊かな祝福があります。イエスさまの優しい気持ちは、テーブルからこぼれ落ちるほど、いっぱいです。

このイエスさまの優しさを信じて、イエスさまにお願いをしに来たお母さんがいました。「娘を苦しみから救ってください」と必死にお願いしました。でも、何だかこの時のイエスさまは、いつもとは違うお方みたいです。冷たい態度や言葉だなあと思いません？　でも、それには理由がありました。

このお母さんは、ユダヤ人から見れば外国人。当時、外国人は「犬」と呼ばれ、神さまの優しさが届かないかわいそうな人と考えられていたんです。みんなにとって「犬」はかわいい大切な存在だけど、昔は悪い人のことを「犬」と呼んでいたんです。

このお母さんはイエスさまから、「小犬」と呼ばれましたが、イエスさまのことをきらいになったり、お願いをあきらめたりは絶対にしませんでした。イエスさまの前に必死に走って行って、ひれふして「主よ。私をお助けてください」。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます」とイエスさまにお願いすることをやめませんでした。私はイエスさまから見たら、心がきたない「小犬」のような人間です。でもイエスさまの優しい気持ちは、私にもこぼれ落ちてくるはずです。そう信じて、イエスさまに必死にお願いしたいです。

このお母さんに、何があってもイエスさまをまっすぐに信じる心を与えてくださるために、イエスさまはわざと、冷たいと感じてしまう態度を取られました。そしてお母さんが信じたとおり、イエスさまは苦しんでいた娘をいやしてくださいました。本当にイエスさまは、すばらしいお方だね。

◆お祈り

イエスさまの優しさが分からなくなっても、私たちがイエスさまの優しさを疑うことがないように、守ってください。どんな時でも、イエスさまの大きな優しさと大きな力を信じることができますように。

（長野福音教会牧師　高橋宣広）

９月１６日　　**テーマ：「エパタ（開け）」**

聖書個所：マルコの福音書７章３２節~３７節

◆今日のみことば

> そこで、イエスは、その人だけを群衆の中から連れ出し、その両耳に指を差し入れ、それからつばきをして、その人の舌にさわられた。　　マルコの福音書７章３３節

◆メッセージ

私たちの周りには体のことで苦しい思いをしている人たちが沢山います。

イエスさまの時代にも苦しい思いをしている人たちがいました。今日の聖書箇所には耳が聞こえず、話しができない人が登場します。そしてその人が、イエスさまと出会います。

この人は、自分でイエスさまのところへやってきたのではありませんでした。この人の友達がこの人のことを治してあげたくて、イエスさまのところに連れて来たのです。そして、この人のために頭に手を置いてお祈りしてくださいとお願いしました。

イエスさまはこの人だけをみんなの中から連れ出して、聞こえない耳に指を差し込んだあと、その人の舌にイエスさまのつばを手でつけました。こんなことされた人はどんな気持ちだったかな。耳が聞こえない、話ができない人にとって、一番傷んでいるところに、イエスさまが触ってくださいました。この人は、イエスさまの手のぬくもりを温かく感じただろうね。そして、愛を受けとめたことでしょう。イエスさまは、大きく息を吸って、天に向かって「エパタ」(「開け」という意味のアラム語）と言われました。

するとこの人の耳は聞こえるようになって、話しもできるようになりました。イエスさまはこの人の弱い部分を直接さわって、神さまにお祈りして治してくださったのです。イエスさまは、この人に自分が治してもらったことを誰にも話してはいけないと言われました。でも、この人は沢山の人に自分が治してもらったことを話してしまいました。生まれてからずっと耳が聞こえなくて、話しもできない生活をしてきたので、耳が聞こえるようになって、話しもできるようになったことが嬉しくて、黙っていられなかったのかもしれませんね。

この話しを聞いた人はみんな驚きました。「この方のなさったことは、みなすばらしい。耳の聞こえない者を聞こえるようにし、口のきけない者を話せるようにされた。」とイエスさまの奇跡ばかりが伝わってしまったのです。イエスさまはイエスさまに会えば「病気が治る」とか、「耳が聞こえる」とか、「話しができるようになる」とその部分ばかりの話しをしないようにと言われたのです。

イエスさまは、その人の一番つらいところにさわってくださる救い主です。イエスさまは私たちに心を開き、イエスさまを信じることを求めておられます。イエスさまのことを正しく知り、正しく伝えていきましょう。

◆お祈り

「苦しい時にも、神さまに頼って、イエスさまを信じます。　私の心を開いて、救ってください。私たちも神さまのことを正しく伝えることができますように。」

（上大岡聖書教会牧師　杉江真）

９月１７日　　**テーマ：「あなたこそ生ける神の御子キリスト」**

聖書個所：マタイの福音書１６章１６節

◆今日のみことば

> シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」
>
> マタイの福音書１６章１６節

◆メッセージ

弟子たちと旅を続けていたイエスさまは、ピリポ・カイザリヤという山と川がきれいな町に来ました。そこはとても自然が豊かな町でしたが、昔からニセモノの神さまを拝んだり、ローマ皇帝を拝んだりするようなところでした。そんなところで、イエスさまはご自分がみんなからどのように思われているかを弟子たちにたずねます。「先生はバプテスマのヨハネではないか、と言われていますよ」。ほかにもエリヤ、エレミヤ、預言者のひとり、と弟子たちはたくさんの有名人の名前をあげました。イエスさまはだまって聞きながら、弟子たちにもう一度たずねます。「では、あなたたちはわたしを誰だと思っていますか」。何と言ってよいのかわからず困っていました。そのとき、弟子のペテロが声をあげました。「あなたは、生ける神の御子キリストです」。人々はエリヤだ、預言者だ、と言って、イエスさまがほんとうの神さまだと誰もわかっていないときでした。それでもペテロはしっかりとイエスさまを神さまだと信じる心をあらわしました。この答えにイエスさまは喜びました。そして、ペテロのように、イエスさまを救い主キリストと信じる心とことばがあるところに教会を建てる、と約束してくださいました。

私たちが毎週かよっている教会はどんなところでしょうか。お友達がいるから楽しい。ギターがじょうずなお兄さんがいるところ。お楽しみがいっぱいあるのはすばらしいことです。でも、ほんとうは、イエスさまを信じる心とことばがあるから教会はすばらしいのです。私たちの心とことばは、イエスさまを誰だと言っていますか。「神の御子キリスト」と、心から言えるときに、毎週かよう教会は、もっともっとすばらしいところとなっていくのです。

◆お祈り

ペテロさんがイエスさまから喜ばれたように、わたしもイエスさまを喜ばせるくらいに信じる心をあらわすことができますように。

（須坂聖書教会牧師　篠原哲二）

9月18日　　**テーマ：「山上の変貌」**

聖書個所：マルコの福音書９章１節～１８節

◆今日のみことば

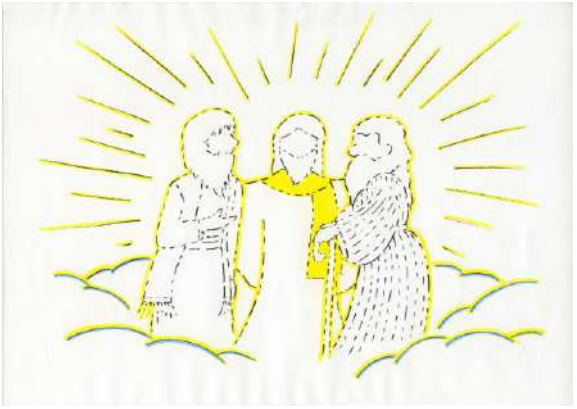
そのとき雲がわき起こってその人々をおおい、雲の中から、『これは、わたしの愛する子である。彼の言うことを聞きなさい』という声がした。」

マルコの福音書９章７節

◆メッセージ

イエスさまはある日、山で３人の弟子たちに、すばらしい経験をお与えになります。

山に上ると、イエスさまの顔は輝き、その衣までもまぶしいほど真っ白になりました。イエスさまは神の御子としての、天国での栄光を弟子たちに見せたのです。さらに、そこに旧約時代の律法の代表モーセさんと預言者の代表エリヤさんが現れて、イエスさまがエルサレムでとげようとしておられる最期について話をしました（ルカの福音書９章３１節）。イエスさまの十字架と復活によって、旧約聖書の律法と預言が実現するというのです。そして、栄光の雲がわきあがって彼らをつつみ、父なる神さまの声がしました。「これは、わたしの愛する子。彼の言うことを聞きなさい。」



後におじいさんになったペテロさんは手紙の中で、この出来事をふり返って（第二ペテロ１章３～１８節）、「神のご性質にあずかる者となる」希望をもって、信仰と愛をもって生きるようにと勧めています。ペテロさんは年を取って、イエスさまとの再会が近づくにつれ、はっきりとあの日のことを思い出し、思い出すたび信仰と愛をもって生きたいと願うのです。あの山でペテロさんは少しでも長く栄光の主とともにいることを願いましたが、かないませんでした。でも、主が再び来られる日には永遠に栄光の主とともにすごすことができるのです。ペテロさんは主のみもとで「主よ。私たちがここにいることはすばらしいことです！」と叫び続けるでしょう。

主が再び来られる日が近づいています。栄光の主キリストとともに永遠をすごす者としてふさわしく、備えができているでしょうか。

◆お祈り

「天のおとうさま。きょうイエスさまがもどって来られたら、喜んでおむかえできるように、信仰と愛をもって生活できるように、わたしを助けてください。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン」

（苫小牧福音教会牧師　水草修治）

９月１９日　　**テーマ：「ゆるしのたとえ」**

聖書個所：マタイの福音書１８章２１節～３５節

◆今日のみことば

> イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」　　マタイの福音書１８章２２節

◆メッセージ

だれかがあなたにひどいことをして「ごめんなさい」と言って来たとき、あなたは何回まで赦すでしょうか？ペテロはだいぶがんばって「７回まででしょうか？」と聞いたのですが、イエスさまは「７度を７０倍するまで」とおっしゃいました。それは７×７０で４９０回という意味でしょうか？　違いますね。だいたい、何回ゆるしたか数えているなんて、ほんとうには赦していないということでしょう。イエスさまがおっしゃりたいのは、何回でも、無限に赦しなさいということです。そのことがわかるように、イエスさまは今日のたとえ話をしてくださいました。

１万タラントは今のお金にすれば数千億円になりますが、見当もつかないほどたくさんのお金を表します。１００デナリは、まあ１００万円といったところです。それも結構な額ですが、おとなの人なら稼ぐことができるお金です。その違いは、大きなお家一軒分と１００円の違いくらいとも言えます。このお話の家来は、とんでもない額の借金を免除してもらいました。ところが、少しばかりのお金を貸した友だちが「お金を返すのを、もう少し待ってほしい」と頼んだのに、聞いてあげなかったばかりか、牢屋に入れてしまったというのです。どうして、こんなひどいことができるのでしょう。自分がどれだけ赦してもらったのか、全くわかっていないからです。

実は、神さまと私たち、そして私たちに「ごめんなさい」と言う人は、このお話の王様と家来、家来の友だちを表しています。神さまは、ほんとうなら地獄へ行かなければならないはずの私たちの罪を全部赦してくださいました。王様が、自分が損をして借金を免除したように、神さまはご自分のほうのひとり子イエスさまのいのちを犠牲にして、私たちの罪を赦してくださったのです。そのことの意味がわかった人は、他の人に優しくなり、赦さないではいられないはずです。

イエスさまはここに、神さまの赦しを示すことで、私たちが赦し合い、愛し合うようにお教えくださいました。それが神さまの子どもたち、天の御国の民の考え方、生き方なのです。

◆お祈り

「イエスさまの十字架のゆえに、ゆるされていることを感謝します。私たちが、『ごめんなさい』と言ってくる人をやさしく、何度でも赦すことができますように。」　　（軽井沢キリスト教会牧師　茂木幸雄）

９月２０日　　**テーマ:「罪の無い者が」**

聖書個所：ヨハネの福音書８章１節～１１節

◆今日のみことば

「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」
ヨハネの福音書８章７節b

◆メッセージ

みんなにとってイエスさまはどんな神さまですか？やさしい神さま？それとも厳しい神さま？・・・イエスさまの教えには、きびしすぎるように感じるものもありますね。たとえば、「兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。」（マタイ 5:22）と。「きびしいなぁ」「大変だなぁ」と思う人が多いでしょう。

でも、イエスさまが罪について教えるのは、その人が自分の罪を知り、認め、悔い改めるためです。聖書が厳しく罪を明らかにするのは、多くの人を救いに導くためです。罪を悔い改めて、イエスさまの十字架のゆるしと愛を受けることができます。

今日の聖書箇所は、律法学者とパリサイ人が罪を犯した女の人を連れてきました。こんな悪い人は、石打にするぞ、と、さばく気持ち満々。イエスさまに質問しました。「旧約聖書のなかには、こういう罪を犯した女を石打ち（死刑）にするように命令しています。あなたは何と言われますか」と・・・。

イエスさまは、すぐに返事せず、地面に何かを書きつづけておられました。これはイエスさまのやさしさでもありました。人の心の中も知っているイエスさまは、この人たちの心に悪い考えがあることを気付かせようとしたのでしょう。それから、「あなたがたのうちで罪の無い者が、最初に彼女に石を投げなさい」と言いました。イエスさまは女の人の罪をうやむやにはなさいませんでした。罪は罪だからです。だけど、他の人の罪を責める人の心にも罪があることも、しっかり考えさせたのです。罪のない人なんていませんね。

罪がある人は、他の人をさばいてはいけません。それは神さまだけがなさることだからです。そのように人の罪をさばくことができる神であるイエスさまも、自分の罪を認めて悔い改める人には「わたしもあなたを罪にさだめない」とおっしゃって、その罪を赦してくださるのです。

自分に罪があることを忘れて、他の人の罪をさばこうとしないように注意しましょう。

◆お祈り

「ゆるされてもまだ罪のせいしつがあることをわすれないで、他の人たちにやさしくできますように。」

（中野キリスト教会牧師　廣田信之）

９月２１日　　**テーマ：「わたしは世の光です」**

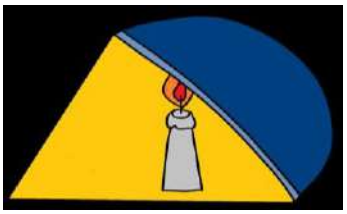
聖書個所：ヨハネの福音書８章１２節

◆今日のみことば

> イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」
>
> ヨハネ福音書８章１２節

◆メッセージ

イエスさまは、「わたしに従う者」と言われました。あなたは、イエスさまに従いたいと願っていますね。その人には、すばらしい二つ約束をしてくださいました。一つは、やみの中を歩かないという約束です。イエスさまのお話を聞いていた人々は、夜の暗闇の危険をよく知っていました。恐ろしい獣や泥棒は夜やって来ますが、灯りには近づいてこないからです。私たちは今、夜でも明るい部屋で安心して過ごすことができますが、人の心にある暗さはイエスさまの時代も、今も同じです。悪い考えや思い、人を悲しませる行いは、暗い心から始まるからです。



イエスさまに従う人、イエスさまについて行きたいと願う人は、暗い心をずっと持ち続けることはなく、必ずイエスさまが喜んでくださる明るい心を持つことができます。だから、もっと、私たちが明るくしてあげられますし、暗い心の人が近くにいてね。

もう一つの約束は、いのちの光を持つことです。ランプも電灯も、油や電気がなくなれば消えてしまいます。いのちの光はそうではありません。聖書の最後にある黙示録には、天国ではイエスさまご自身がひかりだと教えています。決して消えないイエスさまの光を持つとは、「天国でもイエスさまといっしょ」という、すばらしい約束です。こんなにもすてきな約束をくださったイエスさま。あなたも、喜んで従いたいと思いますね。

◆お祈り

「イエスさまが光です。イエスさまが、心の暗いところを照らし、天国までもいっしょにいてくださいますからありがとうございます。」

（知立キリスト教会牧師　原田和典）

９月２２日　　**テーマ：「神のわざが現れるため」**

聖書個所：ヨハネの福音書９章１節～７節

◆今日のみことば

> イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現われるためです。」　ヨハネの福音書９章３節

◆メッセージ

イエスさまは、弟子たちと道を歩いておられました。そこに生まれつき、全然目の見えない人がいました。弟子は、イエスさまに質問しました。「イエスさま、この人が生まれつき目が見えないのは、お父さん、お母さんが罪を犯したからですか。それともこの人が罪を犯したからですか。」

時々、目が不自由な人、白い杖をついて歩いている人を見ることがありますね。「どうして目が見えなくなってしまったんだろうか？何か悪いことをしたから、バチが当たったんだろうか？」色々考えることがあるかもしれません。

でも、イエスさまは「この人が目が見えないのは、神さまがすばらしいことを、この人にしてくださるためです。」と言われました。神さまは、一人一人を神さまのすばらしさを表すために生まれさせてくださいました。一人一人に神さまの愛が注がれています。イエスさまは、つばきで泥を作って、その人の目に塗ってから、こう言われました。「行って、シロアムの池で洗いなさい。」その人は、イエスさまが言われたとおりにしました。素直にイエスさまに従ったのです。そうしたら、生まれつき目が見えなかったその人は見えるようになったのです。こうして神さまであられるイエスさまは、この人にすばらしい奇跡を行われたのです。イエスさまは何でもおできになる神さまなのです。

イエスさまを心から信じましょう。

◆お祈り

「天のお父さま。あなたを賛美します。イエスさまは、何でもおできになられる神さまです。心からあなたを信じ、従って行けるようにしてください。」

（野沢福音教会牧師　小寺肇）

９月２３日　　**テーマ：「わたしは良い牧者です」**

聖書個所：ヨハネの福音書１０章１１節

◆今日のみことば

わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。

ヨハネ福音書１０章１１節

◆メッセージ

羊という動物を知っていますか？　羊はおくびょうで、みんなでいるのがすきな動物です。ひとりでいると、まいごになりやすく、じぶんをまもってくれる羊かいがひつようです。よい羊かいと出会うと、羊はかれのあとをどこまでもついて行きます。ときどきおそろしいオオカミが、羊の命をうばおうとしてやってきますが、よい羊かいなら命がけでその悪いてきから羊を守ってくれます。

あなたがもしも羊のようなら、たのもしい羊かいがひつようでしょう。

ところでイエスさまは、ご自分を「良い牧者です」とおっしゃっています。イエスさまは、神さまを信じている羊たちをよく知っていて、めんどうをみて下さいます。 わたしたちは羊のようにまいごになりやすいので、イエスさまが羊かいであればあんしんです。

ですから、よい羊かいであるイエスさまにしたがって行けば、おおかみがきても、まいごになってもだいじょうぶです。そう思いませんか？　イエスさまがわたしたちをいのちがけで悪まから守ってくださいます。まいごのわたしたちをどこまでもさがしてくださいます。それればかりではなく、わたしたちの命を救うために、十字架の上でごじしんの命までもすててくださいます。だからだいじょうぶなのです。イエスさまは、わたしたちにとって世界一すばらしい羊かいなのですから。

羊かいであるイエスさまの声をよくきいて、イエスさまのあとにどこまでもついて行きましょう。

◆お祈り

天のお父さま。イエスさまがわたしたちのよい羊かいであることを感しゃします。まいごにならないように、イエスさまの声をよくきいて、イエスさまのあとにどこまでもついていけるようにおみちびきください。

（シオンが丘キリスト教会牧師　山口光）

９月２４日　　**テーマ：「本当の喜び」**

聖書個所：ルカの福音書１０章１７節~２０節

◆今日のみことば

> だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びなさい。」
>
> ルカの福音書１７章２０節

◆メッセージ

イエスさまの弟子たち７０人が、イエスさまの御名によって遣わされました。彼らはイエスさまに命じられた通りに、福音を伝え、病気をいやしたり、悪霊を追い出したりしました。

もし、あなたにこのような力が与えられたらどんな気持ちになるでしょう。イエスさまの名前で、悪霊さえもあなたに服従するのは、とてもうれしいことでしょう。弟子たちもそうでした。彼らは興奮して、これらの出来事をイエスさまに報告しました。「イエスさま、イエスさま、あなたの御名を使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。」イエスさまも、彼らがよろこんでいるのを見て、「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。」と答えてくださいました。弟子たちは、自分たちに素晴らしい力が与えられていることに有頂天になりましたが、イエスさまは、続けて、それよりも、「神さまの国にあなたの名前が書き記されていることの方がもっともっと素晴らしいことだよ」と教えてくださっていました。

この世界では、たくさんのお金をもつことや、悪霊が従うほどの強い力を持つことは、すごいことかもしれませんが、これらはいつまでも残るものではありません。この世界は、滅びてなくなります。天国では、この世のお金も、力も、悪霊を追い出す賜物力も必要ありません。神さまの国、天国では、お金がないことや食べものに困ることも、サタンが私たちを攻撃してくることもないからです。そして、また、たくさんのお金や悪霊を追い出すほどの力は、私たちを神さまの国に導くことが出来ません。マタイの福音書の７章２２節には、主の名によって預言をし、悪霊を追い出した人々の中で、神さまの国に入ることができない人たちもいることを教えています。

神さまの国に記録された名前は、永遠に残る、とイエスさまは約束してくださいました（黙示録3章5節）。だから、弟子たちのように、今だけ、一時的に与えられたものや力のことで喜んだり、そればかり求めたりしないで、イエスさまの十字架によって罪が赦され、天国に招かれていること、私の名前を書き記してくださったことを喜び、感謝しましょう。そして、イエスさまの愛と天国があることを多くの人々にも伝えていきましょう。

◆お祈り

イエスさま、私の名前を天国に記してくださってありがとうございます。この世の人々のように、お金や力を求めないで、天国の人らしく、いつもイエスさまを愛し、家族や友だちを愛することができますように導いてください。

（高麗聖書教会牧師　李相勲）

９月２５日　　**テーマ：「良いサマリヤ人」**

聖書個所：ルカの福音書１０章２５節～３７節

◆今日のみことば

この三人の中で、だれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」するとイエスは言われた。「あなた行って同じようにしなさい。」　　ルカの福音書１０章３６節、３７節

◆メッセージ

あなたには、友だちがいますか？　友だちと遊んだり、いっしょに勉強するのは楽しいですね。友だちが困っていたら、すぐに助けてあげると思います。あなたは、兄弟や家族、仲良しの友だちには優しくすることができるでしょう。でも、知らない人や、仲の良くない人にはどうでしょうか？

「隣人を愛すること」「だれが隣人か」と言うことを教えるために、イエスさまは、一つのたとえ話をして下さいました。

ある人がエルサレムからエリコへ行く途中、強盗に襲われてしまいました。服や持ち物は取られて、何回もなぐられて、気を失って倒れてしまいました。そこへ、三人の人が通りかかりました。一人は祭司、一人はレビ人、もう一人はサマリヤ人でした。はじめの二人は、今でいうなら、聖書のお話をする人、神さまの働きをする人でした。でも、強盗に襲われた人を助けないで、急いで行ってしまいました。自分も同じ目にあったら大変だと思ったのかもしれません。

最後に来たサマリヤ人は、強盗に襲われた人と仲の良くない国の人でしたが、かわいそうに思って、助けてあげました。傷の手当をして、その人を自分の乗っていたロバに乗せて宿屋に連れて行き、お世話をしてあげたのです。かかった費用も自分のお金を出して払いました。強盗に襲われた人は、サマリヤ人に助けられて、どんなにうれしかったかわかりません。

イエスさまは、たとえ話の最後に「あなたも行って同じようにしなさい。」と言われました。私たちも、仲の良い友だちだけでなく、知らない人や仲の良くない人にも優しく親切にできるといいですね。

◆お祈り

「良いサマリヤ人のように、そばにいる人に対して、優しく親切にできるようにしてください。」

（佐渡金井キリスト教会伝道師　矢田妃出実）

９月２６日　　**テーマ：「どうしても必要なこと」**

聖書個所：ルカの福音書１０章３８節～４２節

◆今日のみことば

「しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけです。マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」

ルカの福音書１０章４２節

◆メッセージ

あなたは、良いことだと思って自分からやり始めたのに、途中で嫌になりやめてしまったとか、あれもこれもしなきゃと思っているうちイライラし、できないことをだれかのせいにしてしまったことはないですか？　また、授業中に先生の話を聞くなど、その時一番しなければならないことをいいかげんにしていることはないですか？　大切なことが何かわからず独りよがりな考えでいると、私たちはそんな失敗をしてしまいます。

今日の聖書のお話に書かれているのは、せっかくイエスさまを喜ばせたかったのに、逆にイエスさまに腹を立て八つ当たりしてしまったマルタさんの姿です。イエスさまとお弟子さんたちが食事をして休んでもらえるように喜んで家に迎え、いろいろ考えているマルタ。姉の手伝いをせず座ってイエスさまのお話を聞いている妹のマリヤ。そしてそのままにしているイエスさま。大勢の人の食事を一人で作ることはとても大変です。しかしイエスさまは、「マルタ、気がつかなくて悪かったね。」とも「マリヤ、お姉さんの手伝いをしなさい。」とも言わず、「マルタ。（ごはんも大切だけれど、）どうしても必要なことは、一つだけだよ。マリヤはその一番良いことを選んだのだ。」と応えました。マリヤさんは、イエスさまの話を聞くことが楽しみで、イエスさまも誰かがご自分の話を聞いてくれることが一番うれしいお方です。マルタさんは、自分が得意なことを一生懸命したかったのでしょうが、イエスさまが本当に喜ぶことは何かをあまりよく考えなかったのでしょう。

あなたも、どんなに良いことでも、最後に腹を立て「もう嫌だ」と思ってしまった時は、考え直してみましょう。それは今本当にしなければならない必要なことなのか。家にいる時も学校にいる時もどこにいても、どうしても必要なことは何か、そして何よりも、私たちの主なる神さまであるイエスさまが喜ぶことは何かを考えて歩みましょう。

◆お祈り

「天のお父さま。どんな時でもイエスさまが喜ぶことは何か、私が何をした方がいいのか、一番必要なことを選ぶことができるように導いて下さい。」

（亀田キリスト教会伝道師　松下紀美子）

９月２７日　　テーマ：祈りを教えてください

聖書箇所：ルカの福音書１１章１節

◆今日のみことば

さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」

ルカの福音書１１章１節

◆メッセージ

イエスさまは、よくお祈りをされる方でした。人里離れたところだったり、山に登られたり、おひとりだったり、ペテロさん、ヤコブさん、ヨハネさんを連れられたりと、毎日お祈りをしておられました。

その日もイエスさまは、祈っておられました。お弟子さんたちはそのお祈りの姿を見ていました。「あぁ、イエスさまのようにお祈りしたいな。」イエスさまのお祈りが終わるのを待って、ひとりのお弟子さんが「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」とイエスさまに聞きました。この「ヨハネ」とは、バプテスマのヨハネさんのことです。バプテスマのヨハネさんは、みんなに罪を悔い改めるように語り、悔い改めた人たちにヨルダン川で洗礼を授けていました。バプテスマのヨハネさんのお父さんは、神殿に仕える祭司でみんなの代表でお祈りをささげる「くじ」があたった人、ザカリヤさんでしたよね。きっと小さいときからヨハネさんは、お祈りをザカリヤお父さんから教えてもらっていたことでしょう。そしてヨハネさんは洗礼を受けた人たちにお祈りを教えていたのです。お祈りって、自然にできるようになるのではないのですね。教えてもらうことです。だから、イエスさまのお弟子さんたちもお祈りの仕方をイエスさまに尋ねました。

イエスさまは、どなたに祈るのか、どのように祈るか、何について祈るのかを分かりやすく私たちに教えてくださっています。お祈りできるかな、なんだか恥ずかしいな、失敗したらどうしよう、と思うお友だちもいるかもしれませんが、大丈夫！　毎日、イエスさまが教えてくださった「主の祈り」をお祈りしましょう。毎日の練習で、神さまに喜ばれるお祈りが、できるようになります。

今日のお祈りは、家族のみなさんで「主の祈り」を祈りましょう。

◆お祈り

「主の祈り」

（南柏聖書教会伝道師　菊池真恵美）

９月２８日　　テーマ：愚かな金持ち

聖書箇所：ルカの福音書１２章１３～２１節

◆今日のみことば

自分のためにたくわえても、神の前に富まない者はこのとおりです。　　ルカの福音書１２章２１節

◆メッセージ

みんなが持っているものは、だれからもらったものでしょうか？大好きなおもちゃ、着ている洋服、食べ物、家、・・・。そのような必要なものは、そばにいるお父さん、お母さん、大人の人たちが、子どもたちに与えてくれているでしょう。でも、あなたのいのちは誰から与えられたのでしょうか。また、あなたのお父さんやお母さんのいのちは誰から与えられたのでしょうか。聖書は、私たちにいのちを与えてくださるお方が本当はどなたなのかを教えてくれます。

あるお金持ちの人が自分のために、たくさんの食べ物やお金や大切なものがいっぱいはいる大きな倉を作りました。

自分で集めた食べ物、自分で建てた倉。全部自分のもの。この倉さえあればこれからはなんの心配もなく楽しく暮らしていけると思っていました。でも神さまは彼に言われました。「おろかもの、お前は今夜死んでしまうのだ。そうしたらお前が集めた物は他の人のものになってしまうのだぞ。」

私たちは自分のいのちを長生きしたいからといっても、ずっと生きることはできません。いのちは、神さまが与えてくださったものです。この男の人は、そのことを忘れて、自分のいのちは自分のものだと思っていたのです。そして、実はこの男の人が持っている物も全て、神さまが与えてくださったのです。そのような神さまの恵みを忘れて、感謝する心も忘れて、自分勝手にただ好きなように生きていこうとする人は、神さまから「おろかもの！」と言われてしまうのです。そして、そういう人生は、本当の幸せではないのです。

あなたが持っている物は、すべて神さまが与えてくださっているものです。何よりそのいのちを神さまが与えてくださいました。あなたのいのちや、あなたの持っている色々な物を、ひとりじめするようにして自分勝手に生きることを神さまは悲しまれます。このいのち、そしてたくさんのものを神さまに「ありがとうございます！」と感謝しましょう。そんな神さまへの感謝の心で生きることこそ、本当の幸せな人生なのです。

◆お祈り

「神さまが、ぼく（わたし）にいのちやすべてのものをくださっていることをありがとうございます。」

（新発田キリスト教会伝道師　本間文）

９月２９日　　テーマ：天の喜び

聖書箇所：ルカの福音書１５章４節～１０節

◆今日のみことば

あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。　　ルカの福音書１５章７節

◆メッセージ

みんなから悪い人たちだと言われ、のけ者にされていた人たちが、イエスさまのところに集まってお話を聞いたり、いっしょに食事をしていました。それを見て、「あいつらなんて、ほっておけばいいのに、どうしていっしょに食事までするんだ・・・」と、ぶつぶつ言った人たちに、イエスさまは、このお話をしてくださいました。

どんなに時間がかかっても、どんなに大変でも、必ず見つかるまで捜すもの・・・それは、捜す人にとって、絶対になくしたくない、とても大切なものです。あなたの家族も、もし、あなたが迷子になってしまったとしたら、きっと、見つかるまで一生懸命になって捜すことでしょう。神さまにとって、私たち　ひとりひとりは、それ以上に大切な存在なのです。たとえ、どんなに人から嫌われている人でも、です。

大切な大切な存在だからこそ、いなくなったのが、たくさんの中のたった一人でも、見つけるまで捜し、見つけたら、その喜びは、自分ひとりではとっておけないほど大きなものになるのです。イエスさまは、父なる神さまの喜びを、いっしょに喜ぶために、そして、神さまの愛から迷い出てしまった罪人である私たちを見つかるまで捜すために、私たちの世界に生まれてくださいました。私たちは、イエスさまに見つけていただいて、神さまに愛されていることがわかったのです。私たちは、こんなにも愛されているのですね。

イエスさまが、私たちのことを、見つかるまで捜し、見つけ出してくださったとき、「いっしょに喜んでください！」と、私たちの神さまは、大喜びしてくださいました。そして、今も、神さまは、神さまから遠く離れている人たちをいっしょに捜してくれる人、見つかったらいっしょに喜んでくれる人を捜しています。私たちも、神さまの喜びを、いっしょに喜びたいですね。

◆お祈り

「私を捜し出して大喜びしてくださった父なる神さま。私も、あなたの喜びを、イエスさまといっしょに喜ぶことができますように。」

（山の下福音教会牧師　長谷部愛実）

９月３０日　　テーマ：放蕩息子

聖書箇所：ルカの福音書１５章１１～３２節

◆今日のみことば

こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとに行った。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした。　ルカの福音書１５章２０節

◆メッセージ

お父さんから財産を分けてもらって遠い国に旅に出た弟息子。

あっという間にお金を使い果たしてから、大ききんが起こります。食べることにも困り、誰も相手にしてくれない中で「お父さんのところに帰ろう」と立ち上がりました。

自分勝手に出て行き、ぜいたくに遊んで財産を使い果たしてしまったというのに、何とお父さんは弟息子が帰ってくるのを毎日毎日待っていたのです。

遠くから息子を見つけ「かわいそうに思い」走り寄って、抱きしめてくれたのです。きっと何日も着替えもせず、汚れて　においもしていたことでしょう。そんなことを気にもせず、お父さんは大喜びで迎えてくれたのです。

私たちも自分勝手にしたい放蕩息子と似ています。神さまを知っていても、神さまから離れて、わがままやうそ、悪口、自分でしたくないと思っている悪いことを毎日してしまうのです。でも神さまは、私たちがお父さんの家に帰る放蕩息子のように神さまのもとに帰ることを、いつも待っていてくださいます。

私たちは自分の力では罪の生活を止めることはできないのです。

父なる神さまは、そんな私たちを「かわいそうに思って」ひとり子のイエスさまを十字架につけて、私たちを招いてくださいました。

ですから私たちも待っていてくださっている神さまのもとに毎日帰りましょう。神の子どもとして、神さまは大喜びで迎えてくださいます。

◆お祈り

「神さま、私たちを喜んで迎えてくださり感謝します。毎日、父なる神さまのもとに帰ります。」

（知立キリスト教会　原田朗子）